

## カザフスタン

### 主要データ

国名〔英名〕	カザフスタン共和国〔Republic of Kazakhstan〕
面積(k m <sup>2</sup> )	2,724,900
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	15.6
人口密度(人/k m <sup>2</sup> )	5.7
GDP(百万 US\$)	109,273
一人当り GDP (US\$)	7,019
主要鉱産物：鉱石	銅、クロム、ウラン
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛
鉱業管轄官庁	産業新技術省（エネルギー鉱物資源省から移管）、地質・地下資源利用委員会
鉱業関連政府機関	産業新技術省（エネルギー鉱物資源省から移管）、地質・地下資源利用委員会
鉱業法	地下資源・資源利用法(2010年7月7日付)
外資法	投資法（2003年1月8日付）
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境法（環境影響評価制度あり）
鉱業公社	Tau-Ken Samruk(金属)、Kazatomprom（ウラン）
近年の鉱業関係問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2007年以降政府が既存ライセンスについて、契約義務の実施状況のレビューを行うなど、国の関与が強まる傾向あった。2010年7月、国有企業の関与が探鉱開発に有利となり、カザフスタンの製品・労働・サービス等の利用義務を課すなどの特色を持つ地下資源利用法が施行された</li> <li>・カザフスタン資本の大企業では、買収を核とした事業多角化、業務拡大の動きが見られる</li> </ul>
2009年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008年11月、鉱物採取税の導入など鉱業に係る税制が改正され、2009年1月から実施された</li> <li>・2009年1月、国有の鉱業持株会社「Tau-Ken Samruk」が設立された</li> <li>・2009年のウラン生産量はカナダを抜いて世界トップとなった</li> <li>・2010年7月、国有の鉱業会社の関与が有利となる新しい地下資源利用法が施行された</li> </ul>

## 1. 鉱業一般概況

カザフスタンは、広大な自然と、エネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国である。そのポテンシャルは、石油、天然ガス、ウランにとどまらず、クロム、亜鉛、マンガン、銅、鉄などの鉱物資源においても埋蔵量が世界全体の10～30%に及ぶものが数多くあり、世界各国から、そして世界のメジャー鉱物資源企業から注目されている。

カザフスタンにおける資源開発は、1991年の旧ソ連からの共和国独立後、エネルギー資源を皮切りに外資導入が進展してきたが、徐々に外資への規制が整備され、特に2005年前後から国が資源開発への関与を強めてきている。2007年後半から2008年前半にかけては、既存の鉱業ライセンス契約の見直しが行なわれたほか、ライセンス管理や税制面でも鉱物資源採取税（MET: Mineral Extraction Tax）の導入など、制度的な強化が行われてきている。

また、天然資源を開発する目的の国営資源企業が設立されており、ウランを開発するKazatomprom社（1997年設立）、石油・天然ガスを開発するKazMunaiGas社（2002年設立、2006年ロンドン証券取引所等上場）に続き、2009年1月、鉱物資源を開発するTau-Ken Samrukが設立されている。

こうした中、従来の地下資源利用関連の制度面を包括的に見直し、ライセンス管理強化、税制面での強化などの一連の資源ナショナリズムの流れを踏襲した、新しい「地下資源利用法案」が2008年7月に策定・公表され、その後10月にカザフスタン議会下院に提案された。同法案は、その後、公聴会、外資を含めたシンポジウム等における検討作業を経て、大統領の署名を待っている状況であったところ、2010年7月7日、ナザルバエフ大統領は、同法案に署名し、地下資源利用法が成立・施行されている。同時に大統領は、鉱物資源分野を今後4年間で現在の2.5倍の産業規模に拡大するよう指示を出している。

## 2. 鉱業政策の主な動き

- ・2009年1月、カザフスタンにおける鉱物資源開発担当の国営企業として「Tau-Ken Samruk社」が設立された。同社の株式はすべてカザフ政府保有の国家福祉基金（National Welfare Fund: Samruk Kazyna）が保有している。今後、カザフスタン政府としては、同社が資源メジャー等と共に探鉱・開発活動を実施していくことを通じて、資源メジャー等の技術、ノウハウ等を吸収し、将来的な金属鉱物資源分野での中核企業として育てていきたいとしている。
- ・2009年8月、カザフスタン政府は、同国の地下資源における戦略鉱床リストを発表した（政令No.1213 “On approving the list of subsoil fields having strategic significance（仮訳）”）。本リストに掲載された鉱床は、同国の社会的経済利益に大きな変化を及ぼすことから、国の安全保障に危機を招いた場合、国がその鉱業権の一切を決定する権利を有するとされている。本リストには、石油、ウラン、その他の金属鉱床合計231件が存在している。
- ・2009年1月、カザフスタンにおいては新税制が施行された。地下資源利用者のための税制としては、従来の①地下資源利用に係る契約、②生産分与契約のうち、①のみとなっている。なお、カザフスタンにおける税金の種類は、法人所得税、個人所得税、付加価値税（VAT）、物品税、地下資源利用税、社会税、地租、資産税、車両税、ビジネス登録税等となっている。
- ・新たに資源開発分野に導入された、鉱物採取税（Mineral extraction tax）は、採掘コストと市場価格をベースとした生産額に基づき算定されるもので、税率は、鉱物ごとに銅8%、亜鉛9%、金、銀、白金及びパラジウム6.0%、クロム17%、ウラン24%などとなっている（表1参照）。
- ・他方、合わせて法人税の減税（2011年まで現行30%を15%に軽減）や、その他関連制度の改正の中で手続の簡素化等も行われた。しかし、鉱物採取税に関しては、2008年後半以降の世界的な金融危機、資源価格の低下に対応して、2009年10月、下表のとおり2012年まで一時的な減税を行うことが決定された。具体的には、2009年度赤字の企業に対しては、個々の鉱種ごとに低減した税率が適用されることとなった。
- ・2009年の新税制の適用による税率の変更は以下のとおりである。

- ・ 法人税は以前の 30%から 2009 年は 20%、2010 年 17.5%、2011 年から 15%へと段階的に低減。
  - ・ VAT は、13%から 12%へ低減。
  - ・ ロイヤルティ (2~6%)に代わる鉱物採取税 (MET: Mineral Extraction Tax : 7~20%) の導入
  - ・ 超過利潤税における無税基準を 20%から 25%に引き上げ (地下資源利用者の累積控除額が年間総所得の 125%を超えた場合、支払い義務が発生。税控除額の 25%超に対しては、純利益に対して変動税率 0~60%が課税される。)
  - ・ ボーナスとしては、地下資源利用権獲得時のサイン・ボーナス及び商業量発見ボーナス (確認埋蔵量の 0.1%)
  - ・ 輸出エネルギー資源 (原油、ガス、石炭) 使用税 : 税率 7~32%。
  - ・ なお、従来のロイヤルティでは、地下資源利用者に必要な輸送料及び付随経費が考慮されていたが、MET では考慮されず、国際価格の相場により MET は計算される。その結果、ロイヤルティの税率は 2~6%であったが、MET では 7~20%となっている。
  - ・ また、表に掲載されていない、レアアース (希土類金属) の MET は、カザフスタン政府によって制定されるとされている。
  - ・ また、近年のカザフスタンにおける資源ナショナリズムの流れを踏襲した、新しい地下資源利用法が 2010 年 7 月 7 日に大統領署名により成立・施行された。新しい地下資源利用法の特徴は、資源開発に係るカザフスタン政府の関与を強め、カザフスタン共和国の国益の保護を極めて重視するという近年の同国の資源政策の傾向を明文化し、従来は別々の法律であった、石油・天然ガスと鉱物資源 (ウランを含む) とを包括的に束ね、エネルギー・鉱物資源開発を網羅する法律体系を構築したところにある。
  - ・ 旧法と新法の大きな変更点については以下のとおりである。
- ① 地下資源利用権について、探鉱権と採掘権とに分割され、探鉱・採掘を連続して行う権利はなくなった。また、契約形態については、生産分与契約 (PSA) は規定が削除され、また、採掘契約は「採掘及び一次加工契約」に変更された。その結果、探鉱契約終了後、原則として改めて採掘に係る入札を行うため、探鉱・開発事業を連続して行う可能性が低くなった。
  - ② 落札者を選択する基準は簡素化され、権利取得ボーナスの規模及び地方予算への支払額の 2 つとなった。ボーナスは落札者決定後 50%を支払い、契約締結後 50%を支払う。ただし、落札者の過失により契約できなかった場合には、支払ったボーナスは返却されない。
  - ③ 国営鉱山会社が 50%以上権益を有する場合は、上記入札を行う必要がなく、地質・地下資源利用委員会への認可の下、探鉱契約後に採掘契約を連続して締結することができる。ただし、入札を行ったかどうかにかかわらず、探鉱契約時・採掘契約時の 2 度ボーナスの支払いが必要となる。
  - ④ 生産された資源の売買だけでなく、生産企業の権益や株式の譲渡 (無償譲渡を含む) についても国に優先権が生じることとなった。
  - ⑤ 契約期間中に地下資源利用者にとって不利となる法律や税制の改正があった場合、既存の契約時点での法制度が保証されるとの規定が変更され、制度改正が商業活動を直接悪化させない場合には、契約変更を強いられる可能性がでてきた。
  - ⑥ 所管機関が一方的な契約解除や契約無効となる事由が明確化された。具体的には、一定期間内に契約義務違反等を 3 通以上解消しなかった場合、国の優先権規定に従わなかった場合、契約修正等が期間内に終わらなかった場合には契約解除され、入札が無効であった場合、法律上の義務付けが契約に含まれなかった場合、明らかに誤った情報を記載した場合等には契約は無効とされる。
  - ⑦ 契約の履行や解除に関する紛争が当事者間の協議等で解決されない場合は、裁判所に解決を依頼することとなり、従来可能であった国際仲裁機関に解決を依頼することができなくなった。なお、二国間投資協定等の国際協定で別途国際仲裁機関への解決を依頼できるようになっている場合には、この限りではない (日本・カザフスタン間の投資協定は、現在協議中である。)
  - ⑧ 地下資源利用者だけでなくその請負先は、カザフスタン製の部品・製品、並びにカザフスタンの労働・サービスが国外のものと比較して同等以上の場合には、活用する義務は従来どおりであるが、加

えて新たに、先端技術・加工技術を有する企業を育成・活用する義務及び必要なインフラを整備する義務が追加された。

表 1. カザフスタンの鉱物採取税率一覧

			MET 税率 (%)		
			2009 年	2010 年	2011 年 以降
1	鉄、非鉄、放射性 金属の鉱石	クロム酸鉱石(精鉱)	16.2	16.8	17.0
		マンガン、鉄マンガン鉱石(精鉱)	2.5	2.8	3.0
		鉄鉱(精鉱、ペレット)	2.8	3.2	3.5
		ウラン(生産的な溶解、採掘方法)	22.0	23.0	24.0
2	金属	銅	5.7	7.0	8.0
		亜鉛	7.0	8.0	9.0
		鉛	8.0	8.25	8.5
		金、銀、プラチナ、パラジウム	5.0	5.5	6.0
		アルミニウム	0.25	0.28	0.3
		錫、ニッケル	6.0	6.0	6.0
3	金属を含む鉱物 原料	バナジウム	4.0	4.0	4.0
		クロム、チタン、マグネシウム、コバ ルト、タングステン、ビスマス、アン チモン、水銀、ヒ素、その他	6.0	6.0	6.0
4	希少金属を含む 鉱物原料	ニオブ、タンタル、セリウム、ジルコ ニウム	7.7	7.7	7.7
		ガリウム	1.0	1.0	1.0
5	分散された金属 を含む鉱物原料	セレンウム、テルリウム、モリブデン	7.0	7.0	7.0
		スカンジウム、ゲルマニウム、ルビジ ウム、セシウム、カドミウム、インジ ウム、タリウム、ハフニウム、レニウ ム、オスミウム	6.0	6.0	6.0
6	放射性金属を含 む鉱物原料	ラジウム、トリウム	5.0	5.0	5.0
7	非金属を含む鉱 物原料	石炭石、褐炭、可燃性の粘板岩	0	0	0
		燐灰岩	4.0	4.0	4.0
		ホウ素硬石膏	3.5	3.5	3.5
		重晶石	4.5	4.5	4.5
		タルク	2.0	2.0	2.0
		ホタル石	3.0	3.0	3.0
		珪灰石	3.5	3.5	3.5
		シュンガイト	2.0	2.0	2.0
		黒鉛、その他	3.5	3.5	3.5
	装飾用石材材料				
8	宝石を含む鉱物原料	ダイヤモンド、ルビー、サファイア、 エメラルド、ザクロ、アレキサンド	12.0	12.0	12.0

		ライト、赤(希少)スピネル、ユークレース、トパーズ、アクアマリン、その他			
9	装飾石を含む鉱物原料	軟玉、青金石、ロードナイト、キャロイト、孔雀石、アベンチュリン、メノウ、碧玉、ピンク石英、翠銅鉱、玉髄、その他	3.5	3.5	3.5
10	工業用石を含む鉱物原料	ダイヤモンド、鋼玉、メノウ、碧玉、蛇紋岩、ジルコン、アスベスト、雲母、その他	2.0	2.0	2.0

### 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

#### (1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表2. カザフスタンの金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比(%)
銅	406.5	419.9	405.9	-3.3
鉛	40.2	39.0	39.4	1.0
亜鉛	386.0	386.8	418.6	8.2
ボーキサイト	4,942.6	5,160.0	5,131.0	4.4
クロム	3,687.0	3,629.0	4,678.0	-0.6
マンガン	2,482.0	2,197.7	2,467.7	12.3
モリブデン	0.6	0.6	0.6	0.0
金(t)	21.4	20.9	22.5	7.7
銀(t)	721.8	681.8	678.2	-0.5
ビスマス(t)	40.0	40.0	40.0	0.0
ウラン(t)	6,637.0	8,521.0	12,200.0	43.2

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

#### (2) 主要非鉄金属地金生産量

表3. カザフスタンの金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比(%)
銅	406.1	398.4	368.1	-7.6
鉛	117.6	105.9	87.8	-17.1
亜鉛	358.2	365.6	328.8	-10.1
チタン(スポンジ)	15.0	15.0	15.0	0.0
セレン(t)	40.0	40.0	40.0	0.0
テルル	20.0	20.0	20.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

### (3) 主要非鉄金属消費量

表 4. カザフスタンの金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)
銅	62.3	84.0	72.0	-14.2
鉛	17.1	22.4	8.6	-61.6
亜鉛	30.0	33.9	34.0	0.2

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

### (4) 主要非鉄金属輸出力

表 5. カザフスタンの金属精鉱及び地金輸出力

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)	主な輸出相手国
銅鉱	54.9	77.0	129.0	67.5	
銅地金	348.5	343.7	308.7	-10.2	中国、トルコ
鉛地金	104.4	88.0	79.5	-9.7	スイス、ウクライナ、露
亜鉛鉱	237.8	228.8	219.8	-3.9	
亜鉛地金	307.2	334.1	295.0	-11.7	中国、伊、蘭、トルコ

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010, World Metal Statistics June 2010)

### (5) 主要非鉄金属輸入量

表 6. カザフスタンの金属精鉱及び地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)	主な輸入相手国
銅鉱	0.0	-	-	-	
銅地金	2.7	0.6	0.1	-84.4	
鉛鉱	30.5	1.4	4.7	234.7	
鉛地金	3.8	4.5	0.3	-93.1	

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010, World Metal Statistics June 2010)

## 4. 鉱山・製錬所状況

表 7. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量(千 t)	備考
Balkhash Complex	Kazakhmys (100%)	銅	37.9	Kounrad, Shatyrkul, Sayk 鉱山からなる 生産量：2009 年
		金	-	
		銀	-	
Zhezkazgan Complex	Kazakhmys (100%)	銅	181.4	North, South, Stepnoy, East, West, Annesky, Zhomart 鉱山からなる 生産量：2009 年
		銀	-	
East Region	Kazakhmys (100%)	銅	108.3	Orlovsky,

		亜鉛	-	Belousovsky, Irtyshtsky, Nikolayevsky, Artemyevsky 鉱山等 からなる 生産量：2009 年
		金	-	
		銀	-	
Karaganda Region	Kazakhmys (100%)	銅	22.8	Abyz, Akbastau, Nurkazgan, Kosmurun 鉱山から なる 生産量：2009 年
		亜鉛	-	
		金	-	
		銀	-	
Kazinc 社	Glencore Internatonal (76%), カザフスタン政府 (14.25%)、他	亜鉛	301.1	Maleevsky, Grekhovsky, Tishinsky 鉱山等保 有 生産量：2009 年
		銅	59.4	
		鉛	79.0	
		銀	4,764.1 千 oz	
Donskoy	Kazchrome (ENRC (100%) )	クロム	3,550	生産量：2008 年
Zholymbet	KazakhGold (100%)	金	29.3 千 oz	生産量：2008 年
Akzhal	ChTPZ (100%)	亜鉛	35.0	ChTPZ Group: Chelyabinsk Zinc Plant (露) 生産量：2009 年
		鉛	6.0	
<Northern/Stepnoye>				
Akdala	Uranium One (70%), Kazatomprom (30%)	ウラン	1.22	生産量：2009 年
Budyonovskoye ( I ~IV)	Kazatomprom (50%), ARMZ (50%)	ウラン	0.46	ARMZ : Atomredmetzoloto (露) 生産量：2009 年
Inkai ( I ~ III)	Gameco (60%), Kazatomprom (40%)	ウラン	0.83	生産量：2009 年
South Inkai	Uranium One (70%), Kazatomprom (30%)	ウラン	0.98	生産量：2009 年
Mynkuduk (East, Central)	Kazatomprom (100%)	ウラン	2.51	生産量：2009 年
West Mynkuduk	Kazatomprom (65%), 住友 (25%), 関電 (10%)	ウラン	0.30	生産量：2009 年
<Central/East>				
Kanzhugan	Kazatomprom (100%)	ウラン	0.41	生産量：2009 年
<Western>				
Irkol	Kazatomprom (51%), CGNPC (49%)	ウラン	0.50	生産量：2009 年 2009 年生産開始 CGNPC:China Guandong Nuclear Power (中)

Kharassan ( I , II )	丸紅他 (40%) , Kazatom prom (30%) , Uranium One (30%)	ウラン	0.11	生産量 : 2009 2009 年生産開始
Karamurun	Kazatomprom (100%)	ウラン	1.22	生産量 : 2009 年
<Southern>				
Katco JV	Areva (51%) , Kazatomprom (49%)	ウラン	3.70	生産量 : 2009 年
Karatau	Uranium One (50%) , Kazatomprom (50%)	ウラン	1.50	生産量 : 2009 年 2008 年生産開始
Akbastau JV	Uranium One (50%) , Techsnabexport (25%) , Effective Energy (25%) (蘭)	ウラン	0.39	生産量 : 2009 年 2009 年生産開始
Zarechnoye	Kazatomprom (49.33%) , ARMZ (49.67%) , Kara-Baltinski Mining Combine (キルギス) (0.67%)	ウラン	0.23	生産量 : 2009 年



図 1. カザフスタンの主な鉱山・製錬所の位置図



表 8. 製錬・精製所生産状況

	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	生産量(千t)	備考
Balkhash 銅精錬所	Kazakhmys (100%)	銅	206.7	生産量：2009年
Balkhash 銅製錬所	Kazakhmys (100%)	銅	199.1	生産量：2009年
Balkhash 亜鉛精錬所	Kazakhmys (100%)	亜鉛	149.3	生産量：2009年
Balkhash 亜鉛製錬所	Kazakhmys (100%)	亜鉛	8.6	生産量：2009年
Zeekazgan 銅精錬所	Kazakhmys (100%)	銅	181.4	生産量：2009年
Zeekazgan 銅製錬所	Kazakhmys (100%)	銅	105.0	生産量：2009年
Ust-Kamenogorsk 鉛亜鉛精錬所	Glencore International	亜鉛	191.0	生産量：2009年推計値
		鉛	-	
Ridder 亜鉛精錬所	Glencore International	亜鉛	110.0	生産量：2009年推計値
Aksu フェロクロム・プラント	ENRC (100%)	フェロクロム	1,151.0	生産量：2009年
Aktybinsk フェロアロイ・プラント	ENRC (100%)	フェロアロイ	276.0	生産量：2009年

## 5. 探鉱状況

銅生産大手の Kazakhmys 社は、2010 年末まで同国中央部 Karaganda 地域の Nurkazdan 銅鉱床について地下 1800m まで探鉱・掘削作業を行う予定であると発表している。

また、国営鉱山会社 Tau-Ken Samruk は、2010 年 3 月、PGMs 等貴金属を専門に探鉱、採取、製錬等を行う子会社 Tau-Ken Altyn を設立したと発表している。

なお、カザフスタン国内で活動している ENRC、Glencore International、Kazatomprom 等は、2009 年中は、主に海外資産の買収や海外企業との注力しており、各企業等の公表情報から探鉱活動は確認されていない。

## 6. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

表 9. カザフスタンの日本への精鉱及び地金輸出量

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009/2008 (%)
鉛地金 (t)	20	324 (P)	115	35.5
亜鉛地金 (t)	3,329	3,164 (P)	1,115	35.2
フェロクロム (千 t)	282	291	138	47.4
希土類原料・製品 (t)	245	528	108	20.5

(出典：財務省貿易月表)

### (2) 日本企業による投資状況

カザフスタンにおいては、官民上げた資源外交によりウラン開発分野及びレアアースの回収分野などへの日本企業の参画が進んでいる。

具体的には、ウラン資源開発分野において、住友商事(株)と関西電力(株)が Kazatomprom 社と共同で West Mynkuduk ウラン鉱床を開発するプロジェクト(開発会社 Appak 社(出資比率：Kazatomprom 社 65%、住

友商事(株)25%、関西電力(株)10%、2007年試験生産開始)に続き、2009年には、丸紅(株)、東京電力(株)及び中部電力(株)が Kazatomprom 社、Uranium One 社とともに進めている Kharasan ウラン鉱山開発プロジェクトも生産が開始された。

また、レアアースの回収分野では、住友商事(株)が Kazatomprom 社とウラン鉱石残渣からレアアースを回収する事業について2009年8月に合意し、2010年3月にはそのための新会社を設立した(Summit Atom Rare Earth Company (SARECO):Kazatomprom 社 51%、住友商事(株)49%)。また、2009年10月から(株)東芝は、Kazatomprom 社とレアアースを含むレアメタル合併事業について検討を行い、2010年6月には合併会社(Kazatomprom51%、東芝 49%)の設立に合意している。

これらの背景として様々な官民の資源外交の働きかけが行われている。2006年8月、小泉内閣総理大臣が現職総理大臣として初めてカザフスタンを公式訪問し、ナザルバエフ大統領と首脳会談を行い、共同声明や原子力平和利用に関する覚書を締結したほか、2007年4月には、甘利経済産業大臣が、原子力関連業界(商社、電力会社、原子力メーカー等)など総勢150人の官民ミッションで訪問し、ウラン権益、核燃料加工事業協力等7分野、24項目の協力案件に合意している。このほか、2008年5月には山本経済産業大臣政務官がカザフスタンを訪問し、エネルギー資源協力や産業協力についてフォローアップ及びムインバエフ・エネルギー鉱物資源大臣との間で覚書を締結し、2008年6月にはナザルバエフ大統領が来日し、福田総理との首脳会談においてウラン開発含む原子力分野での協力関係含む両国関係の強化を図ることとで一致している。

一方、JOGMECは、2007年4月のミッション時に、地質・地下資源利用委員会との間で、レアメタル、レアアース、ベースメタル等の鉱物資源の共同地質調査の実施等の協力に関する基本合意書を締結した。そして、2008年7月から2010年3月にかけて、地質・地下資源利用委員会と共同で、同国 Ushkol-Mulaly 地域でのタングステンの調査を行った。また、2010年7月、JOGMECは国営企業 Tau-Ken Samruk 社との間で同国における鉱物資源の探鉱・開発など資源分野で関係強化を図る包括的な覚書を締結している。

## 7. その他トピックス

### (1) Kazatomprom 社関係

2009年2月、カザフスタンの Kazatomprom 社は、中国 CGNPC(中国広東核電集団)とウラン開発のJV設立を公表した。同JVでは、カザフスタン国内の Irkol 地域及び Semizbai 地域の2か所の鉱床の開発を進める予定で年間1,250tのウラン生産を計画である。

2009年4月、Kazatomprom 社は、仏 Areva 社、カナダ Cameco 社のほか、ロシア、キルギスタン、ウクライナの企業とともにJVを設立し、中国の広東核電集団有限公司(China Guangdong Nuclear Power Co (CGNPC))との間で、2020年までに年間2万4,200tのウラン供給と原子力発電所の建設に関する契約を締結している。

2009年9月、Kazatomprom 社は、北京事務所を新たに開設する予定である。Sauat Mynbayev(サウアト・ミンバイエフ)エネルギー鉱業大臣が中国の王岐山副首相との会談で明らかにした。同事務所は、両国で合意されているウラン探掘と原子力エネルギーに関する共同企業体の設立に向けて開設される。

2010年4月、Kazatomprom 社は、韓国資源会社(KORES)及び韓国電力会社(KEPCO)とウランに関する共同研究、探鉱・開発に関するMOUを締結している。将来的なカザフスタンでのウランの共同開発実現を念頭においている。

### (2) Uranium One 社関係

2009年6月、カザフスタンを中心にウラン生産を行う Uranium One 社(U1社:本社:Toronto、TSX & JSE 上場)は、同社の株式17%を引き換えに、ARMZ社(ロシア国営原子力企業 Rosatom(旧・ロシア原子力庁の機能を継承)傘下)から、カザフスタンの Karatou ウラン鉱山の権益50%を買収が発表され、同年11月、MEMR(エネルギー鉱物資源省)により買収が承認された。

なお、2009年2月、東京電力(株)、(株)東芝及び国際協力銀行は、共同でカナダBC州に Japan Uranium

Management Inc. (JUMI) を設立し、U1 社株 19.95%相当を取得することに合意している。

さらに、2010年6月、ARMZ社は、U1社に610百万US\$の出資を行うことが発表された。これにより、ARMZ社は、U1社の新株356百万株を獲得する一方、U1社には、ARMZ社が参画しているカザフスタン南部に位置する Akbastau ウラン鉱山の権益 50%、Zarechnoye ウラン鉱山の権益 49.67%が譲渡される予定である。なお、これにより、ARMZのU1社保有株式比率は23.1%から51%へと上昇する。これらにより、U1社は、カザフスタンにおけるウラン生産能力を、現行比60%増の16百万lb(7,264t)へと増強すると予想されている。

### (3) Kazakhmys 社関係

2009年12月、Kazakhmys社は、カザフスタン政府系ファンドである Samruk-Kazyna から、27億US\$のプロジェクト融資を獲得したと発表した。同社は、Boschekul 銅プロジェクト(カザフ)に20億US\$、Bozymchak 金・銅プロジェクト(カザフ)に1億US\$を充て、残りの6億US\$を今後3年間で決定する他のプロジェクトに利用する計画である。この背景として、2009年6月、中国開発銀行(China Development Bank Corp. 以下“CDB”)は2009年6月、Samruk-Kazyna に対して、カザフスタンの資源・インフラ開発プロジェクトへの30億US\$の融資支援を発表している。

2010年4月、Kazakhmys社は、中国の国営資源大手である Jinchuan グループ(金川集团有限公司)と同社所有の優良プロジェクトである Aktogay プロジェクトを開発するためのJVを設立し、同グループに権益の49%を120百万US\$で譲渡するMOUを締結した。今後1年でFSを行い、その後3年程度で開発を行い生産開始予定で、開発コストは15~20億US\$、生産規模は銅精鉱を年間10万t、鉱山寿命はおよそ40年となる見込みである。なお、Kazakhmys社の銅精鉱の生産は、2009年は36万t、2010年の予測は30万tである。Aktogay 鉱山は、カザフスタンの東部に位置する露天採鉱の銅鉱山で、銅の埋蔵量が5百万t程度と未開発の銅鉱山の中でも最大級とされている。

### (4) Tau-Ken Samruk 社関係

2010年6月、カザフスタンの Tau-Ken Samruk 社及び Rio Tinto(英)社は、共同探鉱・採掘に係るJV事業の形成に係るMOUを締結した。本JV事業の出資比率は50:50で、Tau-Ken Samrukは探鉱・生産権やその他の権利獲得を、Rio Tintoは技術協力及び探鉱、採掘、製錬プロセスなどのグッドプラクティスの提供をそれぞれ担う予定である。

### (5) ENRC 社関係

2009年9月、カザフスタンで傘下に多くの鉄、非鉄(フェロアロイ、アルミ)の鉱山・製錬所及び電力会社を擁する ENRC(Eurasia Natural Resources PLC)社は、アフリカを主体に銅・コバルト生産企業である CAMEC(本社: London、LSE 上場)の株式20%を取得したと発表した。本取引は、20Pence/株で取引され、584百万円(934百万US\$相当(1.6 US\$/円))に相当する。

CAMECはアフリカ中心の鉱山会社で、銅・コバルト(DRC コンゴの3鉱山に参画)、石炭(モザンビークの探鉱案件1件、南アの探鉱案件1件)、ボーキサイト(マリの探鉱案件1件)、PGM(ジンバブエに1鉱山、南アに探鉱案件1件)の事業を展開している。ENRCは株式取得後、CAMECのDRC コンゴの銅・コバルトプロジェクトへ投資し、約3年間で75千t/年の銅増産を計画している。なお、本増産計画の初期投資額は、約230百万US\$(5年間)と見込んでいる。

( ロンドン事務所 萩原崇弘)